＜自閉症スペクトラムの子どもの言語・コミュニケーション指導＞

講師：よこはま発達相談室　言語聴覚士　飯塚直美先生

① コミュニケーション指導/支援の目的

必要な情報が理解できる形で手に入る、考えや気持ちが伝わる

↓

安心感・充足感・自己肯定感…

↓

穏やかで幸せな暮らし（本人、家族、周りの人たち）

② （特に）必要な情報とは

・今、何をすればよいか　・安心できる（良い～悪くはない）見通し

・「これでよいのだ」と安心できるメッセージ

※こうした情報が不十分だと課題や指示も適切に応じられなくなりがち

③ 理解できる（情報の）形とは

今の能力と環境で（＝頑張らなくても理解できること）

・容易に理解できる記号や語彙　・容易に処理できる量や複雑さ

④ 基本的な留意点

・定型発達（多数派）のありようを理想とせず、他の人たちとの違い（ユニークさ）が自信や希望に繋がるよう支援・指導する

・日常生活においては、こどもも周りの人たちも、今持っている力や手に入る手段で、余力を残して（無理をしないで）コミュニケーションできる仕組みを調えることを優先させる

・指導場面（日常生活より構造化されている）できるようになったことが日常生活に反映されるには、時間と工夫が必要

※適切な支援/指導を提供するためには評価（能力や特性の把握）が不可欠

⑤ より良いコミュニケーション支援のための言語・コミュニケーション指導

・本人にとって意味のある情報が、できるだけ楽に手に入るように

・本人の考えや気持ちや潜在するニーズが、相手に伝わる形で表現されるように言語・コミュニケーションの基礎力向上を図る

⇒基礎力の向上により、コミュニケーションにおける情報処理の負荷↓、余力↑